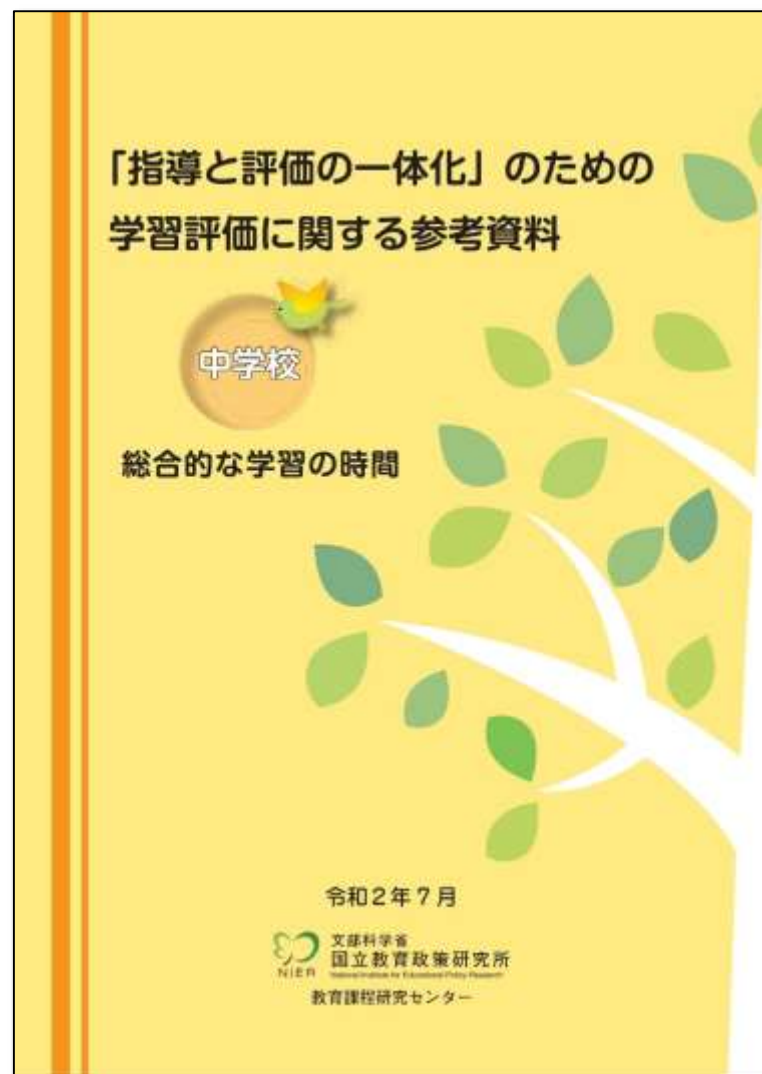


令和2年度  
教育課程研究集会  
中学校 総合的な学習の時間

奈良県教育委員会事務局  
指導主事

学校教育課  
堺 隆宏

# 総合的な学習の時間の学習評価



※参考資料は、下記URLからダウンロードできます。  
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>

# 総合的な学習の時間における評価を行うに当たって

評価の観点については、学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて別紙4を参考に定める。  
(平成31年3月29日付け文部科学省通知より)

## <中学校 総合的な学習の時間の記録>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

文部科学省通知 別紙4 P30

- ・ 学習指導要領が定める目標を踏まえて各学校が目標や内容を設定するという総合的な学習の時間の特質から、各学校が観点を設定するという枠組みが維持されている。
- ・ 各学校において定める目標と内容には、三つの柱に沿った資質・能力が明示されることになる。
- ・ 資質・能力の三つの柱で再整理した新学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進するためにも、評価の観点についてこれらの資質・能力に関わる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理し示された。

※指導要録については、これまでどおり、実施した「学習活動」、「評価の観点」、「評価」の三つの欄で構成し、その生徒のよさや成長の様子など顕著な事項を文章で記述することが考えられる。

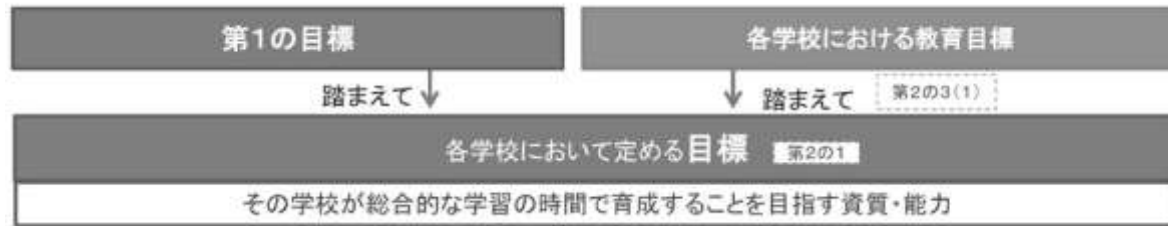
# 「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な手順

①各学校において定めた目標と「評価の観点及びその趣旨」を確認する。

②各学校において定めた内容の記述（「内容のまとめり」として探究課題ごとに作成した「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」）が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。

③「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

# 各学校において定める目標の設定例



## 〔設定例〕

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。
- (2) 地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。
- (3) 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

## 学習指導要領 総合的な学習の時間

### 第2の1

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

### 第2の3(1)

各学校において定める目標については、各学校における教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。

※具体的には、第1の目標の構成に従って次の2点を踏まえる。

- ①「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通すこと」、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること」という、目標に示された二つの基本的な考え方を踏襲する。
- ②育成を目指す資質・能力については、「育成すべき資質・能力の三つの柱」のそれぞれについて、第1の目標の趣旨を踏まえる。

各学校が取り組んできたこれまでの経験を生かし、各目標の要素のいずれかを**具体化**したり、**重点化**したり、別の要素を**付け加え**たりして目標を設定することが考えられる。

# 「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な手順

①各学校において定めた目標と「評価の観点及びその趣旨」を確認する。

## 学校において定めた総合的な学習の時間の目標（例）

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

	(1)	(2)	(3)
目標	地域の人、もの、ことにかかわる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。	地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。	地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を養う。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	地域の人、もの、ことにかかわる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けているとともに、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解している。	地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付けている。	地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとしている。

### 「知識・技能」の観点の趣旨

学校において定めた目標のうち、(1)の文末を「～について理解している」、「～を身に付けている」などとして設定することが考えられる。

### 「思考・判断・表現」の観点の趣旨

学校において定めた目標のうち、(2)の文末を「～している」として設定することが考えられる。

### 「主体的に学習に取り組む態度」の観点の趣旨

学校において定めた目標のうち、(3)の文末を「～しようとしている」として設定することが考えられる。

# 各学校において定める内容の設定

各学校において定める内容 第2の2			
<b>目標を実現するにふさわしい 探究課題</b> 第2の3(4)		<b>探究課題の解決を通して育成を目指す 具体的な資質・能力</b> 第2の3(4)	
例	現代的な諸課題に対応する 横断的・総合的な課題 (国際理解, 情報, 環境, 福祉・健康など)	<b>知識及び技能</b>	<b>思考力, 判断力, 表現力等</b>
	地域や学校の特色に応じた課題	他教科等及び総合的な学習の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにする	探究的な学習の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにする
	生徒の興味・関心に基づく課題		
	職業や自己の将来に関する課題	自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえる	
		第2の3(6)	

## 学習指導要領 総合的な学習の時間

### 第2の2

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

### 第2の3(4)

各学校において定める内容については、目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示すこと。

# 「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な手順

②各学校において定めた内容の記述（「内容のまとめり」として探究課題ごとに作成した「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」）が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。

## 内容のまとめり（例）

内容のまとめり			
探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
地域の自然環境とそこに起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然環境は人間の生活の変化とともに変わるものであること、持続可能な環境の実現には多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々や組織があることを理解する。</li> <li>調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施することができる。</li> <li>持続可能な環境の実現に関する理解は、地域の自然環境とそこに関わる多様な人や組織との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、見直しをもって計画を立てることができる。</li> <li>課題の解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積することができる。</li> <li>課題解決に向けて、多様な情報の特徴に応じて整理し、考えることができる。</li> <li>相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決に向け、自分の特徴やよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。</li> <li>自他の意見や考えのよさを生かしながら課題解決に向け、協働して学び合おうとする。</li> <li>地域との関わりの中で自己の生き方を考え、自分にできることを見付けようとする。</li> </ul>

※総合的な学習の時間における「内容のまとめり」とは、一つ一つの探究課題とその探究課題に応じて定めた具体的な資質・能力

※「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際のポイント

・それぞれの文末を次のようにする。

（知識・技能）

「理解する」→「理解している」

（思考・判断・表現）

「できる」→「している」

（主体的に学習に取り組む態度）

「しようとする」→「しようとしている」



# 「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な手順

## ③ 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

### 内容のまとめりごとの評価規準（例）

内容のまとめりごとの評価規準			
探究課題	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の自然環境とそこに起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域の自然環境は人間の生活の変化とともに変わるものであること、持続可能な環境の実現には多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々や組織があることを理解している。</li><li>・調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施している。</li><li>・持続可能な環境の実現に関する理解は、地域の自然環境とそこに関わる多様な人や組織との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、見直しをもって計画を立てている。</li><li>・課題の解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。</li><li>・課題解決に向けて、多様な情報の特徴に応じて整理し、考えている。</li><li>・相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・課題解決に向け、自分の特徴やよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。</li><li>・自他の意見や考えのよさを生かしながら課題解決に向け、協働して学び合おうとしている。</li><li>・地域との関わりの中で自己の生き方を考え、自分にできることを見付けようとしている。</li></ul>

### ※ 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際のポイント

- ・それぞれの文末を次のようにする。

**（知識・技能）**

「理解する」→「理解している」

**（思考・判断・表現）**

「できる」→「している」

**（主体的に学習に取り組む態度）**

「しようとする」→「しようとしている」

①「内容のまとめり」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成する。

②「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

# 育成を目指す資質・能力を踏まえた「単元の目標」「単元の評価規準」の作成の手順

①「内容のまとめり」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成する。

内容のまとめり

内容のまとめり			
探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地域の自然環境とそこに起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然環境は人間の生活の変化とともに変わるものであること、持続可能な環境の実現には多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々や組織があることを理解する。</li> <li>調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施することができる。</li> <li>持続可能な環境の実現に関する理解は、地域の自然環境とそこに関わる多様な人や組織との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、見直しをもって計画を立てることができる。</li> <li>課題の解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積することができる。</li> <li>課題解決に向けて、多様な情報の特徴に応じて整理し、考えることができる。</li> <li>相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決に向け、自分の特徴やよさに気づき、探究活動に進んで取り組みようとする。</li> <li>自他の意見や考えのよさを生かしながら課題解決に向け、協働して学び合おうとする。</li> <li>地域との関わりの中で自己の生き方を考え、自分にできることを見付けようとする。</li> </ul>

この例では、以下の4つの要素を構造的に配列して作成

- ・探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習活動  
(～を通して)
- ・単元において重視する「知識及び技能」  
(～を理解し)
- ・単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」  
(～について考える)
- ・単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」  
(～に生かす)

## 〔単元の目標〕

〇〇市における自然環境に関する調査活動を通して、自然環境は人々の生活や地域の特徴と深く関わっていることを理解し、持続可能な視点から多面的に自然環境の在り方について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

# 育成を目指す資質・能力を踏まえた「単元の目標」「単元の評価規準」の作成の手順

②「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

内容のまとめりごとの評価規準			
探究課題	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の自然環境とそこに起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然環境は人間の生活の変化とともに変わるものであること、持続可能な環境の実現には多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々や組織があることを理解している。</li> <li>調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施している。</li> <li>持続可能な環境の実現に関する理解は、地域の自然環境とそこに関わる多様な人や組織との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、見直しをもって計画を立てている。</li> <li>課題の解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。</li> <li>課題解決に向けて、多様な情報の特徴に応じて整理し、考えている。</li> <li>相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決に向け、自分の特徴やよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。</li> <li>自他の意見や考えのよさを生かしながら課題解決に向け、協働して学び合おうとしている。</li> <li>地域との関わりの中で自己の生き方を考え、自分にできることを見付けようとしている。</li> </ul>

単元名	単元の評価規準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〇〇市の自然環境を未来の世代につなごう	<ul style="list-style-type: none"> <li>①持続可能な自然環境の実現には、そこに存在する多様な問題の解決に向けて人や組織と目的を共有して取り組むことが必要であることを理解している。</li> <li>②まちの環境がどのように変遷してきたかを捉えるための調査を、対象に応じた適切な方法で実施している。</li> <li>③〇〇市の自然環境に関する問題状況と自分たちの生活との関わりについての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①まちの変遷と調査活動とを結び付けることを通して、〇〇市の環境における問題を明らかにし、解決への見直しをもって計画している。</li> <li>②まちの環境に関する現状を捉えるために必要な情報について、多様な方法の中から効果的な手段を選択している。</li> <li>③収集した情報を比較・分類することで、「効果がすぐ表れる取組」、「多くの人を巻き込むことができる取組」につながるものとして整理しながら解決に向けて考えている。</li> <li>④持続可能な自然環境の実現に向け、調査結果をグラフや地図、写真を使って効果的に表し、「環境フォーラム」で訴えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①調査活動の振り返りを通して自ら設定した課題の価値に気付き、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。</li> <li>②自然環境への市民の関心を高めるための実効性のある取組の実施に向け、自他の考えを生かしながら、協働して取り組もうとしている。</li> <li>③持続可能な自然環境を次世代につなぐために、自分の生活を見直し、地域と協働しながら自分にできることに取り組もうとしている。</li> </ul>

# 「単元の評価規準（知識・技能）」作成のポイント

## （１）知識・技能

「知識・技能」の観点については、

- ①概念的な知識の獲得
- ②自在に活用することが可能な技能の獲得
- ③探究的な学習のよさの理解

の三つに関する評価規準を作成することが考えられる。

①事実に関する知識を関連付けて構造化し、統合された概念的な知識を獲得している生徒の姿を評価規準として設定することが考えられる。ここでは、相互性に関する概念的な知識の獲得として評価規準を設定している。

②技能が特定の場面や状況だけではなく、日常の様々な場面や状況で活用可能な技能として身に付いているか、具体的には技能がいつでも、滑らかに、安定して、素早く行われているなどの生徒の姿を評価規準として設定することが考えられる。ほかにも例えば、「ウェブサイトから、検索ソフトを使って、短い時間にたくさんの情報を収集している。」などとして評価規準を設定することが考えられる。

③探究的な学習のよさの理解として、資質・能力の変容を自覚すること、学習対象に対する認識が高まること、学習が生活とつながることなどを、探究的に学習してきたことと結び付けて理解しているなどの生徒の姿を評価規準として設定することが考えられる。ここでは、学習と生活とのつながりの理解として評価規準を設定している。

### 知識・技能

- ①持続可能な自然環境の実現には、そこに存在する多様な問題の解決に向けて人や組織と目的を共有して取り組むことが必要であることを理解している。
- ②まちの環境がどのように変遷してきたかを捉えるための調査を、対象に応じた適切な方法で実施している。
- ③〇〇市の自然環境に関する問題状況と自分たちの生活との関わりについての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。

# 「単元の評価規準（思考・判断・表現）」作成のポイント

## （２）思考・判断・表現

「思考・判断・表現」の観点については、

「①課題の設定」、「②情報の収集」、「③整理・分析」、「④まとめ・表現」の過程で育成される資質・能力を生徒の姿として示して、評価規準を作成することが考えられる。

①「課題の設定」については、例えば、

- ・複雑な問題状況の中から課題を発見し設定する
- ・解決の方法や手順を考え、確かな見通しをもって計画を立てる

などの視点による設定が考えられる。

②「情報の収集」については、例えば、

- ・情報を効率的に収集する手段を選択する
- ・必要な情報を多様な方法で収集し、種類に合わせて蓄積する

などの視点による設定が考えられる。

③「整理・分析」については、例えば、

- ・異なる情報の共通点や差異点を見付け、関係や傾向を明らかにする
- ・事象を比較したり関連付けたりして、確かな理由や根拠をもつ

などの視点による設定が考えられる。

④「まとめ・表現」については、例えば、

- ・相手や目的に応じて効果的な表現をする
- ・学習を振り返り、自己の成長を自覚し、学習や生活に生かす

などの視点による設定が考えられる。

### 思考・判断・表現

①まちの変遷と調査活動とを結び付けることを通して、〇〇市の環境における問題を明らかにし、解決への見通しをもって計画している。

②まちの環境に関する現状を捉えるために必要な情報について、多様な方法の中から効果的な手段を選択している。

③収集した情報を比較・分類することで、「効果がすぐ表れる取組」、「多くの人を巻き込むことができる取組」につながるものとして整理しながら解決に向けて考えている。

④持続可能な自然環境の実現に向け、調査結果をグラフや地図、写真を使って効果的に表し、「環境フォーラム」で訴えている。

# 「単元の評価規準（主体的に学習に取り組む態度）」作成のポイント

## （３）主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「粘り強さ」や「学習の調整」を重視することとしている。これらは、

- ・ 自他を尊重する「①自己理解・他者理解」
- ・ 自ら取り組んだり力を合わせたりする「②主体性・協働性」
- ・ 未来に向かって継続的に社会に関わろうとする「③将来展望・社会参画」

などについて育成される資質・能力を生徒の姿として示して、評価規準を作成することが考えられる。

①「自己理解・他者理解」については、例えば、

- ・ 自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする
  - ・ 異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする
- などの視点による設定が考えられる。

②「主体性・協働性」については、例えば、

- ・ 自分の意思で目標に向かって課題の解決に取り組む
  - ・ 自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に取り組む
- などの視点による設定が考えられる。

③「将来展望・社会参画」については、例えば、

- ・ 自己の生き方を考え、夢や希望をもち続ける
  - ・ 実社会や実生活の問題の解決に、自分のこととして取り組む
- などの視点による設定が考えられる。

### 主体的に学習に取り組む態度

①調査活動の振り返りを通して自ら設定した課題の価値に気付き、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。

②自然環境への市民の関心を高めるための実効性のある取組の実施に向け、自他の考えを生かしながら、協働して取り組もうとしている。

③持続可能な自然環境を次世代につなぐために、自分の生活を見直し、地域と協働しながら自分にできることに取り組もうとしている。

# 事例 1 未来の人も豊かな暮らしをするために～エネルギー問題について考え、自然環境との共生を目指す～（第2学年）

## 1 単元の目標

様々な発電方法を調査したり電力消費量を減らすための活動に取り組んだりすることを通して、自分たちの暮らしは環境に負荷を与えたり、限りある資源の消費の上で成り立っていることを理解するとともに、電力消費量を抑えるための実現可能な方法を探し求め、未来の豊かな暮らしを守るために行動できるようにする。

## 2 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>①エネルギーの問題について、資源には限りがあることや発電方法のバランスが重要であること、生活や暮らしとのつながりが大切であることなどを理解している。</p> <p>②地域への節電の呼びかけを相手や場面に応じた適切さで実施している。</p> <p>③エネルギー問題と自分の生活との関係について探究し続けてきたことによって、自らの行為が未来社会に深く関わっていることに気付いている。</p>	<p>①電気エネルギーを生み出すための発電について、何をどのように調べるか見通しをもって活動計画書を作成している。</p> <p>②多様な発電方法について、その仕組みや特徴に関する情報を、幅広く効率的に収集している。</p> <p>③自分でできる節電方法について、それぞれのメリット・デメリットを明らかにしたうえで、取り組むことの優先順位を決めている。</p> <p>④エネルギー問題の解決方法について、結論に対する根拠を明らかにして、自分の考えを主張している。</p>	<p>①エネルギーに関する問題について、調べたことの中から伝えたいことを明確にして、新聞を作成しようとしている。</p> <p>②太陽光発電が増えることの是非について、異なる意見のよさや他者の考えの価値を受け入れ参考にしようとしている。</p> <p>③アンケートの結果から、これからの社会を視野に入れ、節電の取組を地域に継続的に働きかけようとしている。</p>



# 事例 1 未来の人も豊かな暮らしをするために～エネルギー問題について考え、自然環境との共生を目指す～（第2学年）

## 3 指導と評価の計画（50 時間）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 豊かな暮らしの背景にあるエネルギー問題について考えよう。（15）	・エネルギーに関する問題を出し合い、解決に向けた今後の活動への見通しをもつ。		①		・発言 ・計画書
	・電気に焦点を絞り、様々な発電方法の仕組みや特徴について調べる。		②		・ワークシート
	・社会見学を通して、化石エネルギーや再生可能エネルギーを利用した発電の意義について考え、学んだことを新聞にまとめる。			①	・新聞
2 エネルギー問題の解決に向けて、自分たちができる取組について考えよう。（25）	・太陽光発電施設の見学や、太陽光発電の設置業者にインタビューを行い、太陽光発電のメリット・デメリットを議論する。 <b>具体的事例③「主体的に学習に取り組む態度②」</b>			②	・振り返りカード
	・太陽光発電や再生可能エネルギーについて、身近な地域や実際の現場での調査を行い、情報を収集する。				
	・エネルギーの自給自足に取り組む人の話を聞き、自分たちができる効果的な節電方法について考える。（私の節電ベスト3） <b>具体的事例②「思考・判断・表現③」</b>		③		・「私の節電ベスト3」シート
	・節電に対する意識を地域に広げ、多くの人に節電に取り組んでもらうために、地域が一斉に消灯する活動を企画し実行する。	②			・節電企画シート

3 取組を振り返り、エネルギー問題について自己の考えをまとめ、今後の関わり方について考えよう。（10）	・活動に対する地域アンケートを行い、集計結果をもとに、活動の有効性を見つめ直す。			③	・活動報告書
	・海外の電力事情（フランス・ドイツなど）を比べ、発電方法や電力生産の方向性について、自分の考えを主張文（結論と理由）としてまとめる。		④		・主張文
	・作成した主張文を使って、「これからの社会における発電や電力生産」についてのパネルディスカッションを行う。 <b>具体的事例①「知識・技能①」</b>	①			・発言 ・主張文への追記
	・単元を通して学んだ記録（振り返りカード、私の節電ベスト3、主張文など）を振り返り、自己の成長や学習したことを基にして、「10年後の私」宛に手紙を書く。	③			・手紙

※単元の評価規準の指導計画への位置付けについては、総括的な評価を行うためにも、生徒の姿となって表れやすい場面、全ての生徒を見取りやすい場面を選定することが重要である。

学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であること。したがって観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要であること。  
(平成31年3月29日付け文部科学省通知より)